

第20回



中之島映像劇場
NAKANOSHIMA SCREEN

松村浩行 レトロスペクティブ



2021

3/20.21

土・祝 日

国立国際美術館・地下1階講堂

大阪市北区中之島 4-2-55

参加無料 各プログラム入れ替え制

※入場方法が決まり次第、当館ホームページに掲載します。

3/20 (土・祝) 13:00 - A 《TOCHKA》

15:00 - B 《よろこび》《つかのまの秘密さ海の城で〜水無月蜜柑試篇》

対談 松村浩行 × 堀潤之 (映画研究者)

3/21 (日) 13:00 - C 《YESMAN / NOMAN / MORE YESMAN》

15:00 - D 《TOCHKA》



国立国際美術館

THE NATIONAL MUSEUM OF ART, OSAKA

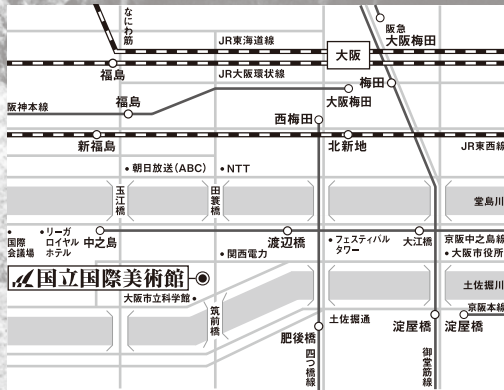
■新型コロナウイルス感染予防対策を実施したうえで開催します。館内でのマスク着用など、来館者の皆様にもご協力をお願いします。
■入館時に体温測定を実施します。37.5℃以上の発熱が確認された場合は、入館をお断りします。
■新型コロナウイルス感染症対策のため、中止になる場合があります。

主催：国立国際美術館 協賛：ダイキン工業現代美術振興財団

画像：《TOCHKA》

第20回中之島映像劇場では、映画作家・松村浩行の作品の回顧上映を実施いたします。松村は、1974年北海道生まれ、早稲田大学卒業後に映画美学学校フィクション・コースで映画製作を開始しました。1999年の初監督作品《よろこび》が世界各地の映画祭で上映され、オーバーハウゼン国際短編映画祭(ドイツ)で国際批評家連盟賞を受賞、注目を浴びます。その後、ブレヒトの戯曲から発想を得た《YESMAN / NOMAN / MORE YESMAN》は、2003年京都国際学生映画祭で準グランプリを受賞しました。そして、北海道の根室にある戦争遺跡を舞台にした《TOCHKA》が2008年に公開されて、映像表現の未到の地を示すことになりました。以後、松村は映画を発表しておらず、新たな作品が待ち望まれています。本上映会は、これまでの活動期間に松村が残した映画の衝撃を甦らせるために企画されました。《TOCHKA》の闇と銃眼から、今改めて何を見ることが出来るかを問い直したいと思います。

国立国際美術館では、本上映会時に「ミケル・パルセロ展」と「コレクション3 見えるものと見えないもののあいだ」を開催します。



【アクセス】京阪電車中之島線「波辺橋駅」(2番出口)から南西へ徒歩約5分／Osaka Metro四つ橋線「肥後橋駅」(3番出口)から西へ徒歩約10分／JR「大阪駅」、阪急電車「大阪梅田駅」から南西へ徒歩約20分／JR大阪環状線「福島駅」、東西線「新福島駅」(2番出口)から南へ徒歩約10分／阪神電車「福島駅」(3番出口)から南へ徒歩約10分／Osaka Metro御堂筋線「淀屋橋駅」、京阪電車「淀屋橋駅」(7番出口)から西へ徒歩約15分／大阪シティバス「大阪駅前」から、53号・75号系統で、「田裏橋」下車、南西へ徒歩約3分(お帰りのJR大阪駅方面最寄バス停は「波辺橋」になります)

当館には専用駐車場はありません。ご来館は電車・バス等をご利用ください。心身に障がいのある方で、車で来館される場合は、当館近隣の有料駐車場をご利用くださいますようお願いいたします。

お問い合わせ
TEL: 06-6447-4680(代) www.nmao.go.jp/

〒530-0005 大阪市北区中之島 4-2-55
4-2-55 Nakanoshima, Kita-ku, Osaka 530-0005

3月20日(土祝)

13:00・A program

冒頭、当館客員研究員より企画の解説を行います

《TOCHKA》(DV/93分/2008年) DCP版(英字幕付き)での上映になります

監督・脚本:松村浩行 助監督:大城宏之・石住武史・本間幸子 撮影・衣装:居原田真美 装置:相馬豊 装飾:浦井崇 録音・編集・整音・劇中写真:黄永昌 スチール:宮本厚志 制作:柴野淳・河合里佳 配給宣伝:TOCHKA UNION 出演:藤田陽子・菅田俊・上野龍成・上野凌雅・モモ・ゴッツ・サッタール

海岸沿いの荒涼とした風景、そこに埋もれるように点在する戦争遺跡。太平洋戦争でアメリカ軍の上陸に備えて設営され、廃墟となったそのトーチカを彷徨い、風景のなかに何かを探している一人の女がいる。そこに禍々しい記憶を抱え込んだ男が訪れ、二人の会話からやがて、トーチカの暗闇に刻み込まれた時間が浮かび上がる。



15:00・B program

作品上映後、対談を開催します

《よろこび》(16mm/32分/1999年)

監督・脚本:松村浩行 制作:柴野淳・黒澤美穂・四方智子 助監督:加藤慶子・石住武史・山本浩子 撮影:居原田真美・浅野学志・佐藤宏紀・南由佳子 照明:松山智・土屋直人・葛生賢 録音:水口波・宮田啓治・久代真喜 美術:椎名寿江・福岡陽子・鈴木紀子・清水隆之・山本浩子 スクリプター:浦山三枝 編集:筒井武文 音楽:Pit Work "Boy Meets Girl"・今西徳之 タイミング:石坂英樹 製作:映画美学学校 出演:遠山智子・西山洋一・泉雄一郎・金炯紀・光地拓郎・美谷直人・内田文・万田邦敏・千葉英輔、南田佳子、大城宏之、高橋洋

謎の企業「リズム社」でひたすらドラムを叩いているアオシギ。そこにダイゴという男が入社してきたことを契機に、彼女は「仕事」に疑問をもち始める。やがて太鼓を乱打し、リズムを破壊してダイゴは去り、アオシギもある決断に至る。個として生きることに眼差しを向けた松村の監督デビュー作。



《つかのまの秘密と海の城で〜水無月蜜柑試篇》(DV/23分/2005年)

監督・撮影・編集:松村浩行 編集・整音:黄永昌 出演:あがた森魚、田口昌由、渡辺ゆきこ

2005年夏のあがた森魚の北海道ツアーを撮影したドキュメンタリー。リハーサルやライブ、あがたがかかわった映画祭、その合間の風のような時間と風景にあがた自身のテキストと唄が重なり、北園克衛の詩が朗読される。完成後、限られた回数しか上映されていない幻の映画。



対談 松村浩行 × 堀潤之(映画研究者)

3月21日(日)

13:00・C program

冒頭、当館客員研究員より企画の解説を行います

《YESMAN / NOMAN / MORE YESMAN》(DV/70分/2002年)

監督・編集:松村浩行 制作:柴野淳・上村久美 助監督:石住武史 撮影:秋元エマ 照明:大城宏之・葛生賢 録音:菅沼俊輔・宮田啓治 美術:尾崎淳一・四方智子 衣装:居原田真美 編集協力:近藤聖治 ドイツ語監修:渋谷哲也 出演:Felix Owusu, 永野雄太、凌雲鳳、Pol Malo, Edriss Alexis, Alfredo Afonso Ferreira, Jana Ulbrich, Raimund Reppich

日本の能の謡曲《谷行》を翻案したブレヒトの教育劇《イエスマン》、その批判から生まれた《ノーマン》と《イエスマン》第2稿から発想を得た実験的作品。非情な判断を迫られる状況で、発動する「しきたり」とは何か。反復される光景に生じる差異を通して、観客の意識は揺さぶられる。



15:00・D program

《TOCHKA》(DV/93分/2008年) ※Aプログラムと同じ作品を上映します